

(お知らせ)
旧陸軍習志野学校跡地内における老朽化したあか筒の可能性がある物体
の発見について

(環境省、千葉県、習志野市同時発表)

平成24年12月21日(金)

環境省総合環境政策局環境保健部
環境安全課環境リスク評価室
代 表 03-3581-3351
直 通 03-5521-8262
室 長 戸田 英作(内線6340)
室長補佐 久保 善哉(内線6341)
係 長 松野 誠也(内線6334)

千葉県環境生活部
環境政策課環境影響評価・指導室
電 話 043-223-4659
室 長 工藤 智子

習志野市環境部環境保全課
電 話 047-451-1151(代表)
課 長 井浦 宏司(内線486)

千葉県習志野市の旧陸軍習志野学校跡地内における民有地の工事現場から、旧軍の老朽化したあか筒の可能性がある物体が約760個発見されましたので、お知らせいたします。

千葉県習志野市の旧陸軍習志野学校跡地内の民有地において、地権者が、既設の埋設管やコンクリート等の撤去工事をしていたところ、本年12月17日から19日にかけて、土中から、筒状の物体が約760個発見されました(破損しているものもあるため、正確な個数は把握できない状況にあります)。

発見された筒状の物体の多くは、直径約11cm、長さ約22cm程度の円筒形をしており、外観的な特徴から旧軍のあか筒の可能性があると考えられるため、現在、密封措置したうえで安全に保管されています。

現場は、旧陸軍の化学戦教育機関である習志野学校跡地内にあることから、工事を行う際には旧軍老朽化化学兵器が発見される可能性に留意するよう、環境省が指針(A事案の区域における土地改変指針、平成17年3月25日)を示しており、地権者においては、同指針に沿って、レーダー探査等や携帯型化学剤検知器による安全確認調査を行いながら、工事が実施されていました。

本件物体の発見・回収時において、旧軍の毒ガス成分を検知することはありませんでした。また、上記撤去工事は無事完了しており、あか筒の可能性がある物体以外には特に異常や危険物の発見はありませんでした。

なお、現場では、平成21年度にあか筒の可能性のある物体が61個発見されていますが、当時、入念的な措置として、環境省が周辺の地下水調査及び土壌調査を実施したところ、旧軍のくしやみ剤及びその関連物質は検出されておられません。

今後、環境省では、当該物体の調査を行い、その結果を踏まえ、適切に処分する予定です。

(写真) 老朽化したあか筒の可能性がある物体



写真1 撤去したコンクリート片の底部に固着した状態で発見された老朽化したあか筒の可能性がある物体 (写真撮影：環境省)



写真2 発見された老朽化したあか筒の可能性がある物体 (写真1とは別のもの) (写真撮影：環境省)

【環境省作成】

旧軍のあか筒について

あか筒は、筒状の容器にあか剤（くしゃみ剤：ジフェニルシアノアルシン）と加熱剤等が充填され、点火薬に着火するとあか剤が加熱され、これが微粒子となって煙状に拡散するという構造を有する有毒発煙筒である。

なお、あか筒に充填されたあか剤は常温では固体であり、熱を加えない限り微粒子となって拡散することはない。

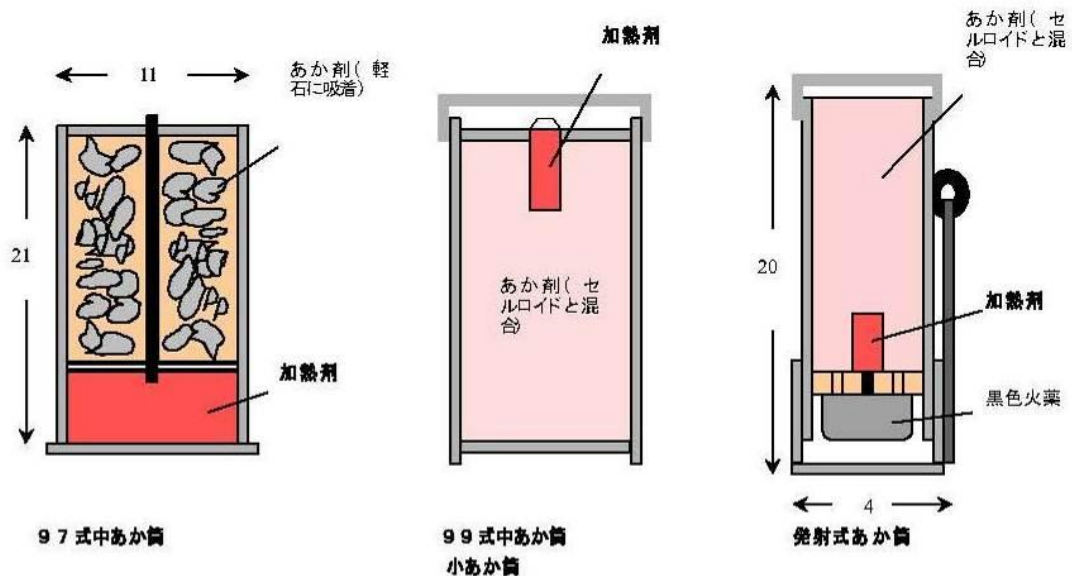
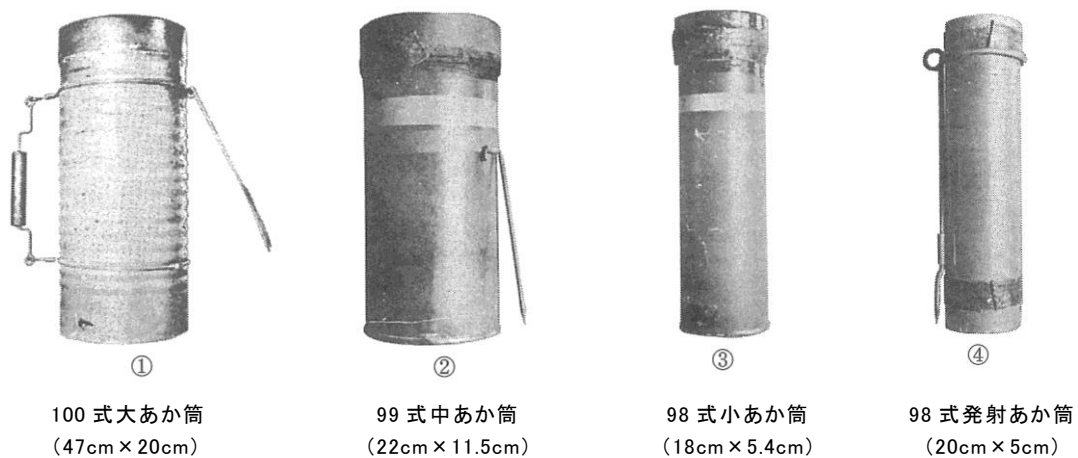


図1 各種あか筒の構造

(出典：日本学術会議「遺棄化学兵器の安全な廃棄技術に向けて」平成 13 年 7 月 23 日)



① 100 式大あか筒
(47cm × 20cm)

② 99 式中あか筒
(22cm × 11.5cm)

③ 98 式小あか筒
(18cm × 5.4cm)

④ 98 式発射あか筒
(20cm × 5cm)

図2 各種あか筒の写真(米軍撮影)

(出典：吉見義明『毒ガス戦と日本軍』岩波書店、平成 16 年刊)